

都民を対象とした低カロリー系飲料等の摂取に係る調査概要

(緩下作用)

【目的】

都民の低カロリー系飲料等の摂取状況を調査し、低カロリー系飲料等の摂取がヒトの健康に及ぼす影響、特に小児へ及ぼす健康影響について分析及び評価するための基礎資料とすることを目的に実施した。

1 WEB 調査（予備調査及び本調査）

【調査対象】

16 歳から 69 歳までの都民

【調査方法】

都民、10,000 人のモニターに Web による予備調査を実施後、条件を満たしたモニターに Web による本調査を実施し、1175 人の回答を得た。

【条件設定】

飲料・食品のうち、特定機能のあるものをその機能別にグループに分類。その中で、糖アルコールを含有する可能性が高い下記 6 カテゴリーを「糖アルコール含有飲料・食品」として定義した。予備調査にて各種食品・飲料の摂取状況について聴取し、下記 6 カテゴリーのうち、いずれかを摂取することがある人、または以下の 6 カテゴリーのいずれかを摂取することがある 3～15 才の子供の保護者を本調査対象者として選出した。

- ①低カロリー・ゼロキロカロリー・カロリーオフと表記のある飲料（酒類も含む）
- ②低カロリー・ゼロキロカロリー・カロリーオフと表記のある食品（菓子も含む）
- ③低糖・砂糖不使用・ノンシュガーの表記のある飲料（酒類も含む）
- ④低糖・砂糖不使用・ノンシュガーの表記のある食品（菓子も含む）
- ⑤虫歯予防効果の表記がある飲料
- ⑥虫歯予防効果の表記がある食品（菓子も含む）

【結果】

- ・ Web 調査結果では、低カロリー飲料等を摂取する大人（15 歳から 69 歳）は 42.8%、子供（3 歳から 15 歳）は子供全体の 22%であった。
- ・ 大人、子供に関わらず低カロリー系の飲料等を大量に摂取することがあると感じており、大人と子供を比較すると、子供の方が菓子類を大量に摂取することがあると感じていた。
- ・ 低カロリー系の飲料等を摂取した後に体に影響があったと感じたのは、大人、子供ともに全体の 2 割程度であった。
- ・ 大人については、実際に感じたことがある症状として、「お腹が緩くなったことがある」が最も多く、子供においても同様に多かった。

2 グループインタビュー調査

予備調査及び本調査の回答者から条件を満たした3グループ18人にインタビュー調査を実施した。

【調査対象】

共通条件

・3才から中学3年生の子供がおり、なおかつ下記3カテゴリーのいずれかを当該子供が摂取している家庭の父親、母親

①低カロリー・ゼロキロカロリー・カロリーオフと表記のある飲料・食品

②低糖・砂糖不使用・ノンシュガーの表記のある飲料・食品

③虫歯予防効果の表記がある飲料・食品

・子供の食生活への関与度合いが高い人

WEB調査で下記の意識に関する項目のいずれについても「あてはまる」または「ややあてはまる」を選択した人

①子供が普段どのようなものを食べたり飲んだりしているのか把握している

②子供の食生活については、自分自身の考え方や意見が反映されている

③子供が口にする食べ物・飲料の選定に大きく関わっている

④各グループともに、3カテゴリーを摂取した際に、健康被害を経験したことがある人を最低1名含める。

【調査方法】

①グループA 母親・子供年少グループ（以降は、年少グループと呼称） 6名

3カテゴリーを摂取している3才から小学校3年生までの子供がいる家庭の母親

②グループB 母親・子供年長グループ（以降は、年長グループと呼称） 5名

3カテゴリーを摂取している小学4年生から中学3年生までの子供がいる家庭の母親

③グループC 父親グループ 6名

3カテゴリーを摂取している3才から中学3年生までの子供がいる家庭の父親

上記3グループに家族の食事（間食を含む）について、気を付けている事やその他意識について調査した。

【結果】

・虫歯対策の点から摂取する人が多かった。

・思春期または太り気味の子供の場合には、低カロリー系の食品・飲料の摂取を通じて糖アルコールを摂取する可能性が高かった。

・味の嗜好性から、無意識に摂取しているケースも多かった。

・摂取した際の影響については、正しい情報が欲しいとの声が多かった。

・緩下作用があることについては、表示があることまた、将来的に健康に影響を与えないのであれば問題がないという声が多かった。